

平成24年1月11日

外科の基礎知識を再確認 現場での診療に意欲
～平成23年度FAMS診療技術セミナーを受講して～

NOSAI 岩手 事業部 家畜課 安田 理

平成23年11月15日（火）から17日（木）までの3日間にわたり、平成23年度FAMS診療技術セミナーが開催されました。本セミナーは産業動物臨床獣医師の卒後教育を目的とし、主に東北地方のNOSAI中堅獣医師職員を対象として、岩手大学農学部附属動物医学食品安全教育センター（FAMS）が主催し、NOSAI東北家畜臨床研修センターが協力する形で開催されるもので、今年で4年目となりました。

今年は「大動物の外科」をメインテーマに、岩手大学農学部獣医学課程大動物診断治療学教室の山岸則夫教授を講師に迎え、東北6県のNOSAIから15名が参加しての開催となりましたので、セミナーの内容について紹介します。

1日目は外科基本手技の復習をテーマに講義が行われました。その中で山岸教授は「人の医療の様な完全な無菌手術は、産業動物の臨床現場では不可能だが、医療従事者の感染に対する正しい認識と少しの工夫、努力次第で汚染低減手術は可能である」と述べられました。外科の基礎的な知識を再確認できたことに加え、実際の症例も交えて紹介され、現場ですぐに生かせる話題が豊富だったと非常に好評でした。

2日目は小雪がちらつく中、附属動物病院を会場に全員参加型の実習が行われました。午前中はX線診断についての実習が行われ、人医療でも盛んに使われ始めているフルデジタル方式のX線装置を用い条件設定を様々に変えながら子牛の四肢や股関節などを実際に撮影し、それぞれの評価を行いました。機器の操作やX線写真の見方に加え、撮影時の牛のポジショニングの参考になったと好評の実習でした。

午後からは牛の去勢手術実習が行われました。去勢適期の黒毛和種子牛6頭を用いて、各県代表の1名が普段の業務で行っているように去勢手術を行いました。受講者は「他県との手技や消毒法の比較が出来て良かった。保定法も参考になりました。それぞれの良い点を取り入れ自分なりの手技を確立したい」と意欲的でした。

3日目は普段の診療現場で遭遇した外科症例の発表会と、事前に提出された質問を題材にした外科全般にわたる総合討論会が行われました。症例報告のテーマは、腱断裂、骨折、

第四胃変位、膈ヘルニアで、各テーマに対し、参加者同士多くの意見が交わされました。また総合討論では日常の診療業務に関する疑問に対して、山岸教授からの確かな回答を頂くとともに参加者同士の意見交換も活発に行われ、参加者が終了時間を忘れるほどの大盛況のうちに幕を閉じました。

受講者の1人は「今回のセミナーで学んだ知識と技術を生かし、より良い獣医療を提供していきたい」と今後の現地での診療に活用したいと述べていました。